
あるR・M君の人生

S・ropez・E

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あるR・M君の人生

【Nコード】

N7010F

【作者名】

S・ropéz・E

【あらすじ】

著者ropézが見てきた世界。ノンフィクションです。ブログ
<http://ameblo.jp/eropéz/>

プロローグ（前書き）

この話は実話です。ノンフィクションです。

ブローグ

2000年6月、そう梅雨前線が九州に到来したところだろうか。

当時中一の著者は…というか著者一家は、大きな問題を抱えていた。母親が外国人（台湾）で母子家庭の一家、著者と4つ下の弟の3人暮らしのこの家庭内ではよくあると言われがちだが、中一の著者が反抗期を迎えていた。小一の頃からの母子家庭だからかなりも苦労もあった。中三までnintendo64がうちの最新家庭ゲームだったし、完全に日本育ちの著者（以下俺）は日本語がたいしてうまくない母親に宿題の相談もできないし、離婚したばっかの頃は、意味もなく俺にあたったりもしていたし、弟にはかなり甘くしていたし、長男は何かと苦労が多い。まあ保身はこれくらいにしておいて…。

だいたい小六ぐらいの頃かな、身長も母を越し、いつの間にか筋力も付いてきたころだな。当時俺へのしつけ方針は主に昭和脳の親がありがちな、物を買えば与えない、体罰も辞さないだった。まあ弟には俺の五分の一ぐらいだけどな。その日も何か怒られたんだな、何か忘れあけど…。その時いつものように母は手を振り上げたんだ。俺は目を瞑り両手を前に突き出したんだ。両掌には何か触れた感触と二の腕には俺の認識では軽い力がかかった。その格ゲー時間で30フレーム後、『海のない湘南地区』にある築40年超のボロ借家の砂壁に肉体がぶつかる音がした。ぶつかったのはここまで書けばわかると思うが母だ。俺が目を開けて見た光景は、砂壁にもたれかかり座ってワンワン泣いている今まで『怖い』存在であったの母だ。その後の俺の行動はまったく覚えてないがこの時何かが変わったんだ…。ちなみにこの時母の肋骨にヒビがはいっていた。背中からぶつかって肋骨にヒビがはいることもあるんだね。どうでもいいが。

まあもともと性格的に合わない二人だ。それからしょっちゅうぶつかり、しばし手が出ることもあった（顔は殴らなかった）。小六の二月頃には児童相談所に相談していたしね。

そしてめぐりめぐって中一の六月。俺すらも『これ以上一緒にいたらこの人を殺してしまう』と思ったころ、児童相談所に保護された。

そこで、児童相談所に初めて行った日から、児童相談所に保護されるまでの流れを説明しよう。

2000年に入ってすぐ俺小六の時、「ツナミのころ」とでも名をつけておこう。母親に連れられ、初めて児童相談所に行った。藤沢の山のほうにある『神奈川県中央児童相談所』だ。

門から入ると車が60台くらい停められそうな広い駐車場の奥に、薄い紫色のタイル貼りの設計者のこだわりを感じられる建物がある。その建物が児童相談所で建物の2、3階には小児科、アレルギー科の病院も併設されている。差別主義者だと思われたくはないが適切な言葉が思いつかないので気を悪くした方にはあらかじめ謝っておくが、こういう施設なので障害者を持った子供が沢山目につく。

児童連れの親子の利用施設の大半が2階病院だ。

しかし、目に着かない場所では、いろいろな相談がされている。

15ぐらいの個室があり、親はケースワーカーと呼ばれる役職の職員と話し、子供は、心理と呼ばれる役職の職員といういろいろな遊びをしながらカウンセリングをする。実際俺がしたのは、バウムテスト・IQテスト・その他は思い出せないが、きっと心理学に関係するところだろう。バウムテストの結果は教えてもらなかったが、テストを受けた小6当時のIQなら書類を覗き見たのでわかるが、今この場では必要ないことなので伏せておくことにしよう。

月1ぐらいで通い始めて四月頃、俺は中学校に入学した。明確な基準はないが、いわゆる思春期の真っ只中の俺は、更に母親に対し

ての接し方がうまくいかなかった。母親の性格上、自分に非があっても決して謝ることはしない。これが台湾人の気質なのか？。わかったことは、血の繋がりが無ければ会うことはなかっただろう。

2日に1度はケンカをするようになり、全く俺に意見を聞かない時は、肩を殴ったり、太ももに蹴りを入れることもあった。まだ自分なりに手加減をしていたはわかる。

しかし、六月頃。いつものようにケンカをしていると母親が台所にあつた包丁を持ち出して、俺に向けてきた。その時に俺の中で何かが崩れ去った。

初めて母親の顔面を殴った。一発だけ。母親は床に倒れ、ある話を思い出した。

俺の母親は俺を産む前に、脳内出血を起こしている。その時は、オヤジが休みだったから、生命には関わらなかったが、後遺症を残した。具体的な症状は説明しにくいが、日常生活には何も問題ない。元来の性格と相まって、今の母親の性格なのだろう。

床に倒れている母親を見て、ある種の恐怖が湧きあがる。

『いつかこの人を殺してしまう・・・』

その後、母親の脳しんとうを病院で確認し、公衆電話で俺は児童相談所に連絡した。

俺の話を聞いたケースワーカーは、その後母親と話し、俺はその日のうちに児童相談所に保護された。六月の下旬の事だった。

プロローグ（後書き）

つづく

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7010f/>

あるR・M君の人生

2010年12月31日03時48分発行